炭礦栄養改善に關す調査研究(その四)

食物調査成績補遺其他

Investigations on the Improvement of Coalminers' Nutrition.
Supplement of the Result of Food Investigation and the Others.

國立營養研究所 加藤正吉・松野信郎
(S. Kato) (N. Matsuno)

食物調査成績の概要についてはさきののべたが¹⁾、整理の都合上前報に記載出来なかつた二三を報告する。

1. 消費單位 本調査における食物消費單位は從來の家庭食物調査に於ける單位成人²⁾³⁾を1とし、勞務者に對してはこれに勞務者の勞働量及び主食勞務加配量等から0~0.4を推定加算使用した(第1表)、なお獨身寮々生は1.5を以て計算した。

2. 生計費調査 食物調査と併行して勞務者の生計費調査を実施したのであるが、一世帯當り(人員6.8單位成人數64)の月収は平均約7300圓、支出は平均約7230圓(収入の約99%)であり食費の全支出に對する率は約72%であつた。この食費が總支出に對して比較的高率であることは1)炭礦勞務者世帯に於ける食生活の荒さ、即ち食品攝取における相當多量の原料廢棄や2)炭礦町と云う消費地的環境3)集團住宅と言う特殊の環境から住居、調度、光熱等の一般支出が他の場所に較べて低いことなどによるものであらう。

なお昭和22年11月常磐炭礦湯本礦勞務課の勞務者生計費調査結果を記載し参考に供する。(第2表)

3. 試験給食の主觀的影響調査 (感想調査)

試験給食の末期にA群に對し總括の意味を以て感想調査を実施したのであるが給食の結果は概して好評で(第3表参照)、精神的に、經濟的に明らかに好影響を示している、このことはむしろ當然のことであるが身體的にも好影響のあつたことと信ずる。これは栄養攝取量の變化⁴⁾及び身體計測上⁵⁾からは見出し得なくとも又數字に過大評價があるとしても作業能率の増進疲勞度の減少、あまかりの回数減少等によつても肯首出来よう。

第1表 世帯勞務者消費單位換算率

職 種	加算成人單位	試 驗 世 帯			比 較 世 帯		
		男	女	計	男	女	計
坑内	採 炭 工	6	0	6	7	0	7
	採 炭 工 補	5	0	5	7	0	7
	支 柱 工	1	0	1	1	0	1
	軌 道 工	1	0	1	1	0	1
	機 械 工	0	0	0	1	0	1
	(坑内計)	13	0	13	17	0	17
坑外	鐵工・鐵工準員	2	0	2	0	0	0
	自動車助手	1	0	1	0	0	0
	土 建 工 補	1	0	1	2	0	2
	送 炭 工	1	2	3	0	0	0
	機 械 工	0	0	0	1	0	1
	事 務 員	0	3	3	0	2	2
	(坑外計)	5	5	10	5	2	7
	計	18	5	23	20	2	22
	平均加算成人數			0.25			0.29

第2表 炭礦勞務者世帯生計費

昭和22年11月常磐炭礦湯本礦勞務課調

收 入	定 時 收 入	369圓	(88.5%)
	臨 時 收 入	481圓	(11.5%)
	計	4179圓	(100.0%)
支 出		4532圓	
	内 食 費	2597圓	支出に對する (57.3%)
差 引		-353圓	
支出の收入に對する%		108.5%	

註 坑外，坑内各世帯 5世帯（4名平均） 11月調査平均

第3表 試験給食の主観的影響調査 I (昭和23年3月29日)

		(寮生 19名)		(世帯 67名内坑内労務者13名)			
項 目				世 帯 全 員		坑内労務者	
		人	%	人	%	人	%
給食前の腹加減 (2月上旬まで)	多	0	0				
	丁 度 よ い	7	37				
	少	12	63				
給食後の腹加減 (2月中旬以後)	多	6	32				
	丁 度 よ い	12	63				
	少	1	5				
給 食 の 味	う ま い	18	95	38	56	7	54
	普 通	1	5	20	30	6	46
	不 味 い	0	0	9	14	0	0
鯨 料 理	う ま い	14	74	35	52	8	62
	普 通	4	21	24	36	5	38
	不 味 い	1	5	8	12	0	0
給食前(二月上旬)に比較して	主 食 の 量 (食べた)	減	つ		8	12	3
		変	ら		53	71	8
		増	え		6	9	2
	個 人 補 給 食	減	つ	18	95	24	36
		変	ら	1	5	43	64
		増	え	0	0	0	0
	腹 持 ち	良	い	17	89	47	70
		変	ら	2	11	19	28
		悪	い	0	0	1	2
	疲 れ 具 合	疲れにくくなった		14	74	41	61
		変	ら	5	26	26	39
		疲れやすくなった		0	0	0	0
	作 業 能 率	上	つ	16	84		
		変	ら	3	16		
		下	つ	0	0		
	食 慾	増	し			28	42
		普	通			37	55
		減	つ			2	3
	あかまりの回数	減	つ	17(註1)	89	—	—
		変	ら	2	11	—	—
		増	し	0	0	—	—

註 1 ナシー一名, 註 2 ナシー一名, 註 3 元から〇同一名

4. 参 考 資 料

第4表 寮生個人補給食一人一日當量 昭和23年2月～3月

食品名	1g	10g	食品名	1g	10g	食品名	1g	10g	食品名	1g	10g
ふかしも	37.8	58.0	牛乳	35.6	55.1	さつま	0.2	0.3	きんつば	3.4	5.3
いも						あげ					
乾パン	29.6	45.7	納豆	3.7	5.8	いか鹽辛	0.2	0.3	汁粉	3.4	5.3
餅	14.2	21.9	大豆	3.2	4.9				あめ	2.8	4.3
砂糖	3.7	5.8	するめ	2.9	4.5	りんご	14.4	22.3	日本酒	1.9	2.9
パン	2.0	3.0	鶏卵	2.5	3.9	干柿	10.9	16.9	たいやき	0.8	1.3
うどん	0.5	0.8	魚介煮付	1.7	2.6	みかん	3.2	4.9	ようかん	0.3	0.5
乾燥芋	0.4	0.6	肉汁	1.5	2.3	夏みかん	1.9	2.9	萩の餅	0.2	0.3
とろろ	0.3	0.5	落花生	0.4	0.7				大福	0.1	0.2
いも			さしみ	0.3	0.5	ビール	8.4	13.1			
干栗	0.2	0.3				まんじゅう	5.0	7.8	野菜煮込	0.3	0.5

一 例

食品名	1g	10g	食品名	1g	10g	食品名	1g	10g	食品名	1g	10g
ふかしも	2625	57.0	牛乳	6300	136.7	干柿	1200	26.0	ビール	2010	43.6
いも											
乾パン	1500	32.6	豆罐詰	225	4.9	りんご	1125	24.4	日本酒	720	15.6
餅	350	7.6	玉子	200	4.3	みかん	375	8.1	アルコール	180	3.9
砂糖	300	6.5	大豆	140	3.0				キヤラメル	140	3.0
									野菜味噌漬	750	16.3

備考 1. 寮生42名延483日間の調査でその中でナシ又は記入のない者が171名あつた、又全然取らない者1名あつた。

2. イは483名1人1日當り、ロは實攝取者312名1人1日當り。

ハは寮生中の1名の2月11日より3月27日迄46日間の總計でニは一日平均である。

第5表 世帯勞務者及び世帯非勞務者家族各員の主食概量 昭和23年2月7日調査

勞務者	人 員	一人一日平均(杯)	米換算量(註1)
坑内勞務者	30名	12.1	6.0合
坑外勞務者			
男 子	7名	10.7	5.4
女 子	8名	8.6	4.3

家 族

年 齢	人 員			一人一日平均 (杯)			米 換 算 量 (合)		
	男	女	平 均	男	女	平 均	男	女	平 均
1~10歳 (平均年齢 6.5歳)	18	15	33	7.2	5.2	6.2	3.6	2.6	3.1
11~14歳	15	5	20	8.1	8.6	8.2	4.0	4.3	4.1
15~20歳	4	5	9	9.5	7.8	8.6	4.8	3.9	4.4
21~以上	0	21	21	0	8.5		0	4.2	

備 考 1. 一人一日平均の茶碗杯数は男子大人用に換算して記入してある。1合は約茶碗2杯 (男子大人用)である。

2. 家族の米穀配給量は次の通りである (炭礦労務者家族)

年 齢 (歳)	1~10歳	6~10歳	11~15歳	16~25歳	26~60歳	60歳以上
基 準 量 (g)	160~220	290	370	330	355	320
加 配 量 (g)	0	35	98	49	74	74
計 (g)	160~220	325 (2.3合)	468 (3.3合)	429 (3.1合)	429 (3.1合)	394 (2.8合)

試験給食の主観的影響調査

「問」 なんでも感想をなるべく詳しく書いて下さい。

「答」 (原文) (寮生一例)

給食期間五十日、自分は種々多量の栄養をとりお蔭様で肥った様な感じがします。

自分はこの栄養の研究に選抜されたことについて給食前にはいやだなと思ひましたが、現在ではむしろ感謝する次第です。現在若し續けて頂けるならば喜んで受けたい……これが現在の自分の心境であります。

鯨料理はいつもおいしく頂きました。一番方の夕食等には又、格別うまく食べられました。時々先生方がお見えになつて、栄養についての講話があり、又、質問等に應じてその都度種々の食物を作つて頂け、本當に感謝して居ります。

今後我々のこの栄養研究が全般的に効果があつたならば、相當今より良い栄養が勞務者に與えられと信じています。その實現の日を待ちわびています。これが自分の給食後に待つべき現實の希望であり、念願であります。

(世帯一例)

食糧事情の悪い今日、私の處では主食は配給で間に合はせてをりますが、副食は調味料を始め消費物の大半はヤミ買でやつているのですから、到底給食の半量位しか食べられませんでしたので、非常に經濟的に助かりました。此の經濟的に楽になつたことは精神的に非常に餘裕を得ました。(大體、私の處などでは、給食の70%位で副食は間に合うと思います。) 此の精神的に楽になつたことは各人の健康状態に及ぼす影響も多いと思います。相對的に申しますと、皆、非常に元氣になつたこと、特に幼児に於て然り、例年のこの二、三月は風邪等に犯される季節なのですが、誰も風邪を引かなかつた

こと等は特筆に値すると思います。

調理は個々の家庭により甘口とか、から口とかありますが、給食は鹽味が強いように思いました。鯨肉は臭味がありますが、飽きないことは他の肉類よりも優れていると思います。とに角、私の宅などでは二十六歳を頭に九人ですが、どの子供も肉を直先に食べる位です。又、酢の物等食べるのは私位で、普通の者には酢の物はあまり必要はないと思います。

文 献

- 1) 加藤正吉：本誌 6 卷 4 號（昭和 23）
- 2) 家庭食物調査（5～8回）加藤正吉・西原綾子・横田フミ：本誌 6 卷 2 號 昭和23）
- 3) 加藤正吉：本誌 2 卷 2 號（昭和17）
- 4) 加藤正吉：本誌 6 卷 4 號（昭和23）
- 5) 速水 決：本誌 6 卷 5 號（昭和23）